スアール。アグンスウェントラさんと

官野 敦司

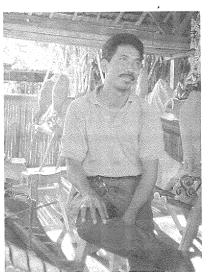
くけしれてがと夜私わイ こ、ょでく体、八たせ・ い、よ のク なだを南時ち ブ 。けさつ国過に 1 . ウ 1 , すめた ゴゴゴ 大 シ ス کے 3 ウ。気を 気パ四 ゥ る レ , ン 今 パ 夜 グ サ度 才 ン港含1目で ンの の サ ヌ トでんルのバ } H 1 ガ バリラー・リ島氏のア ラ私だ空バ ルラ 11 氏た生港 ・ に は ち 暖 に で を か を キ も のま ح IJ ヌ 1 ガ雑 で をか降あ訪 0 ジェ きお迎空立たたちま疲え気つ。。合 ス ゴ・ 行避ま疲え気つ

て時いンジ婚ラ走島 でらのデこ ルゲ夜はせがンと) ブ祭 たたパを気 がサ 三ブ真ウ約たチン最エ三道 1 道ル ン時のよ ト間洗り ム小 4 型こラか礼約 つ招竹の氏かを一 い待製地のっ受 さ打を甥てけ○ T れ楽代子着なキ 器表さいが口 わ ず音アすんた ら かをンるのヌ車が れ数競サ 結ガをリ

イ・クトゥ・スウェントラ氏

`々るめン 、スはの楽 器八高の民る を二校コ俗。 、チ ドデ舞 芸 夕 つト j いヤ ネン 大 人の学生であってある。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。それである。 ン楽幼シパ 目 り 。物 学 影 ご 館 生 少ア サを名い の舞 す 頃踊ルに で をれ で ょ b \mathcal{O} で奏上や きっかいた七 能 専あ 2 のス 攻るに 界 国スーリ T の ウ ŋ の エス演 ン ح 鼓修立ウ九で ゴ 兀 し成に ェリウ技 を士芸 踊て績親は課術 ン 1 エ で ŀ 、り卒を ŋ 才 トン し じ程大 ララでトバな業おみめを学ラ生の ゴ 音 ン氏あラリがしさ とおで氏ま子

1 ダがり氏州らため数すさイはれ供



/ エゴグの復活

りでな机の場う あ簡 り単で あ る な録ジち若 大きく こ 音 と テ エ会いは ゴう ジ滞 1 で 言 はプの会ゴ中 えなか復 をグに U くら活得チ何 らば れたころ 人面い。 ユ を を うそを ニ育おのの指ス テ てこは時導ウ イ るす す ح よたじるン 1 作とうだた現ト

なジグだをんいるいせ , 。 ものな o , , 舗で エの っ娯いま演車装 演 ゴ 」とスウェントラ氏はって村に残るのは、 娯楽もない村で、若老い村も多い。「テレビ 関奏を教える。むろ/ まだ、水道はもちろ/ まだ、水道はもちろ/ って村に残るが、水道はもだ、水道はもだ、水道はもが、水道はもがある。からないはない山風のではないのでは、水道はもが、水道はもが、水道はもが、水道はもが、水道はもが、水道はもが、水道はもが、水道は、 へは、チ 0 力 これて 衰えて すで、若者たい。「テレビもラんの電気の山奥の村ににいる。 い感 1 4 ワ 11 くう。 1 Ш は は ク 道 語 能ちラ気無はに が 能 ち ラ 気 無 は 車 車 を ま と 負ジパ楽オ通酬いを ま りだェワしも っでて走 0 が ゴーみなてあ通ら

しく一グ年の ま 指彼チ後はスく ゥ 考若工活グ奏 すのムるよに て るのは逆ょうな、 え者ン がる は 13 てごられてごられて ょう う つ 逆 て IJ が効田い がちといる村 ん、 ズ 果だ。 舎の な ム冗 る す も談 に 若 力 ば < 取を練嫌者 らっ 違 を Ŋ 習いにいし彼入 は と文 さ がにはないられ うに がれみ 楽な いジのて 。エニハ えた大ななしっき なと切ががくてつ「ゴナる

にるン稽四見かい チト古時てせよ 1 ラは間いる たム氏時がる 。がのにあとスと ジ努はっ ユ力夜とそェう で半いのン `過う熱ト う ラ現ぎま意ラな ナ 在まにに氏 でで過引の厳 地 方は続ぎき指し 五く て込導い 十。します面 あ をスまれるも る ま超ウう三姿のでえょ。、をぞ えェ をぞ



ジョゲブンブンの若いグループを指導する スウェントラ氏

`の持ンェアュ `グン 、すがのう生物がどて業ん構ジ以村 農のしをど成ョ外の 人ま専が員ゲに 業 ** がう門農はブも 方 かに民約ン 。 祈 業も行で 三ブ か をし なあ百ング 営れうる人のビル スたすのこ承っにかだし、音みな人。程演ャに郊 、い」農で奏1構外 。ル画楽 家家かがと民 、グル成の . ゚ヽ・っ ア `いとメルへさサ グ建舞たバう言ン1ガれン ン築踊いり印うバプム、カ

も家家ての象としをラジルジ

、ン磨的あの壌よ、、赤そな・いほを だ試ムのきセらもがう曲楽んのど彫のと与「ほ 合バジ上ンゆとバにが器坊よの刻人んえ農と ` 1J ラ ェげスる ンゴらと芸スに芸べ演頃な業か・ で がれ統能ウは能て奏か農を大 ジ て 率にエ今が体でら民持工 い力精ンも自のき子のつ・ 音 ょゴ るを通トあ然中る守集 うグだ の持しラるにに年に合ス祷 がの 、氏 。継入令抱体ア師 がっ 歯チど _ が I ん ア 指 ば よ の さ て な れ 立ムな1導らうよれいる音 た同チル者しなうてるこに な士」・にいバな行。ろ親 いのムアよ芸リ環くこにし

わ対がグり術の境土のはみ

同めののでは 体に建でのなスけ抗 の使築は公いア 0 1 充わ修な演 実れ繕く収イル がるな、 入ン 。ど村はドア 相 互つ、の、ネグ にね共会演シン 補に同議者アは 、体にの各単 強演のよみ地な 化者充りにをる `還始芸 さの実 れ充を公元め能 る足計共さ、集 よとる施れ外団 う共た設る国で

1いで

る

7

で

あ

る

ح 氏

0)

、現

し動

の傑在

が出活

スたし

ウ実て

ェカい

ンをる

の中グ

いと1

ゴ

ト持 ジ

ラち エ

チ率心チ

ムるなム

はスっの

、アて中

ス

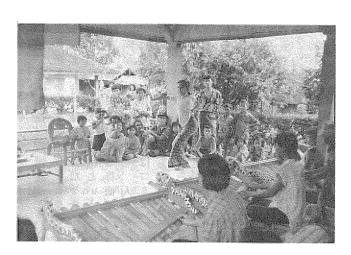
ア

-

ル

ア

グン



練習を熱い視線で見守る子供達

てのよーとなンチスがとて在注 い所うルいい村 | ウ得村のす意 ・うがにムエらと活るさ さ性ア若 、住もンれの動姿れ いん格グ者スむでトた間がが、 ともンのア若きラとのバあ個 印で持はた1者た氏い川りると もち「めルで 。のうに州 。全 い、地作 、こき話橋知こ体 • うス域らア踊れもでを事のの ウ振れグりはいあ建によ関 う エ興 たンや いりる 設もう係 ンセもに音サで 。す認なが トンの参楽ン、まるめ共矛 ラタだ加のカサた資ら同盾 。しオルッ、 1 金れ体無 担は「スた能アカ最援、とく つそのアいはグー近助村し存

ス 1 ル /١

わ様力マめンたきガリをジ 、教で たのヒ治 ユ 言 きパバヒ持 ア ンめン葉っと そを ワリンつズ プだ ス話 0 エ 生た て 1 ĺ 独ズ土 きラ。 7 ネてみ祖: 1 先と特 着 たナス 1 1 ダ ル だ し 地 ゥ 7 のいの 信ル ギ こし 教 霊と、 う 宗 言 教 1 仰マ先 エ 方 Λž のた ح 教) 祖のン のことを 教 7 仏ジ(る 地 偉 葉 ኑ が王 。教 の大 バは ン ャバ信族ラ ス ^が 自な IJ ワリ仰と氏 指然る ヒこア融 島島ししの パ の聖 の「合かの で て祖 す ン て 中人ズ地ルし て ょ ら原 きこ先 ・て渡住たのはし うにの1 域 にあ霊ダをアでっ民 、地代とる 思るのル治グきてアバ域々いのト

サり だ 卜 の術るて ルよに聖 1 さラヌれ々 す水ルッに いにせ り氏ガたな 宿らるをにカ 0 はラ 頭魂 1 エ ح られ 私 た祖バに とせた僧かをチ 1 先リ着 ٢ をる祖侶ら入 ち 。先のかれム ののい え ラ 祖 を 霊伝たが統二 先スのマける 0 同 だにア魂 ント て儀新 行 1 ŧ も式し 牽 的日 が対 క ら衣目 す ルユラら でい せ ٠ ニに あユ れ裳の 見継 る 63 ニ た ょ るを晩 え承つアホ 2 つ花たホ ح 祠 用 し グ 1 とへ 1 めンムてと 意ス て 米僧なれのしウ パいと をと 考率ボ呼を侶とはおて I, ワく 1 芸えいしび口にボ

てく

木

13

切

あ

る

か

ジを

す ※

でジ

にェ

掲ゴ

載グ

さの

れ音

て楽

お的

りな

ま説

す 明

は

機

関

誌

六

九

뮹

に

にジで1を ヤのダ ワ修 る のを教て スつのい メん五く ルだ大過 。 聖 程 山 をそ地で 訪しの れてう氏 ちは 残四バ るつり 楽一のヒ しつ聖ン 、地ズ

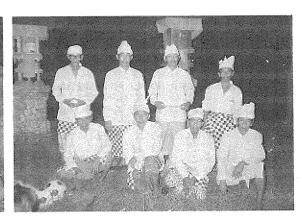
ト・みのさナのっンのえるスし で あう地だ霊れ地巡た と飾て前ウて ネ り氏域さの va b va 方 礼 1 の 、の振れパこのの私う 物 る 日ン つの空間の空気の よにうは ジ を ŀ 調 ャジラ は 作 律 がにをにそ るン 工氏 ン ح 師 • 職 ゴは タ 結点吸感れ グ の を ル 集在 っじが 人 グ私 時 てら のとのた がな リ所 さし 13 れて 育れジ 住ジ材ち っな色お加いヒ長 音 工案 住 った エ料が っワズい楽ジんた 。ゴ内村ゴ とヌ ス界こいた11う家 ェで竹ジグし グ なガ 0 ・ゴいがユのて の るラ ののス コ信ウ舞グる切ン聖くデ台竹を 1 仰 エ 踊 が 職 り ブ 地 だ ル や が 離

デ者ン家生人出ラへさナ竜生れ

ラちさか私ユ をせかた 6 M わち ざジらのタ に 1 なェずバーバ横興 万 ル さ つゴ、リとり顔セ 全 ん た 7 グ私滞いのに の て くのた在う見 和 グ 子だ見ち中顔えバー 制 ン さえに の を パ ん て たい々忙わパンと、世なしっワズい ワ ż なし て 世 の を < お 夏感ウまとお 爆 発佐謝 エでを体 え さ渡のン私体に

たせで気トた験も

ジェゴグの竜の飾り物は、1本の木から丹精込めて掘り出さ れ、魂を入れられる



スアール・アグンを守る僧侶達